

杜の町

飛行機の窓から見ると、日本は緑に覆われているように見えますが、人がすんでいるところはとても少ないと思います。

樹木から、日陰や、酸素、安らぎを得ることができます。関東大震災のとき、火災から多くの人命を救った庭園もありました。災害時の避難場所としても緑の空間は、有意義だと思います。

ヨーロッパの郊外の緑も自然だけでなく、人が作った空間が多くあります。私の友人の住む町も、主要な建物や人が多く集まるところほど緑が多く、森の中に町があるように作られて、心地よい住、仕事、ショッピングの環境だと感心いたしました。

私の住む町も、杜の町であったらと思い書いてみました。

列車で駅に近づくともまず目に入る、昔の城跡の公園。金網が、痛々しく移ります、金網の変わりに冬は椿やさざんか、春はつつじやさつき、夏はアジサイからむくげ等の混植の縁取りなら1年を通して町のいたるところから花と緑がよくみえます。

駅を降りてまず目に入る、公園方向の道。桜の並木があります、そこにもつばきやあじさいむくげを混植し、駅の線路沿いや駐車場周りや高校との境に樹木を植え込み、その道に通じる警察署や市役所、市営駐車場、子供公園、ロータリー、裁判所、学校、そしてメインになる城の表門前です。

ここに、この地域に自生する木々を中心にした杜を作り子供から、高齢者まで憩える水場や足つぼ石や花の咲く陽だまり、観光の人も、市民も足を休めたいような空間を作りたいと思います。

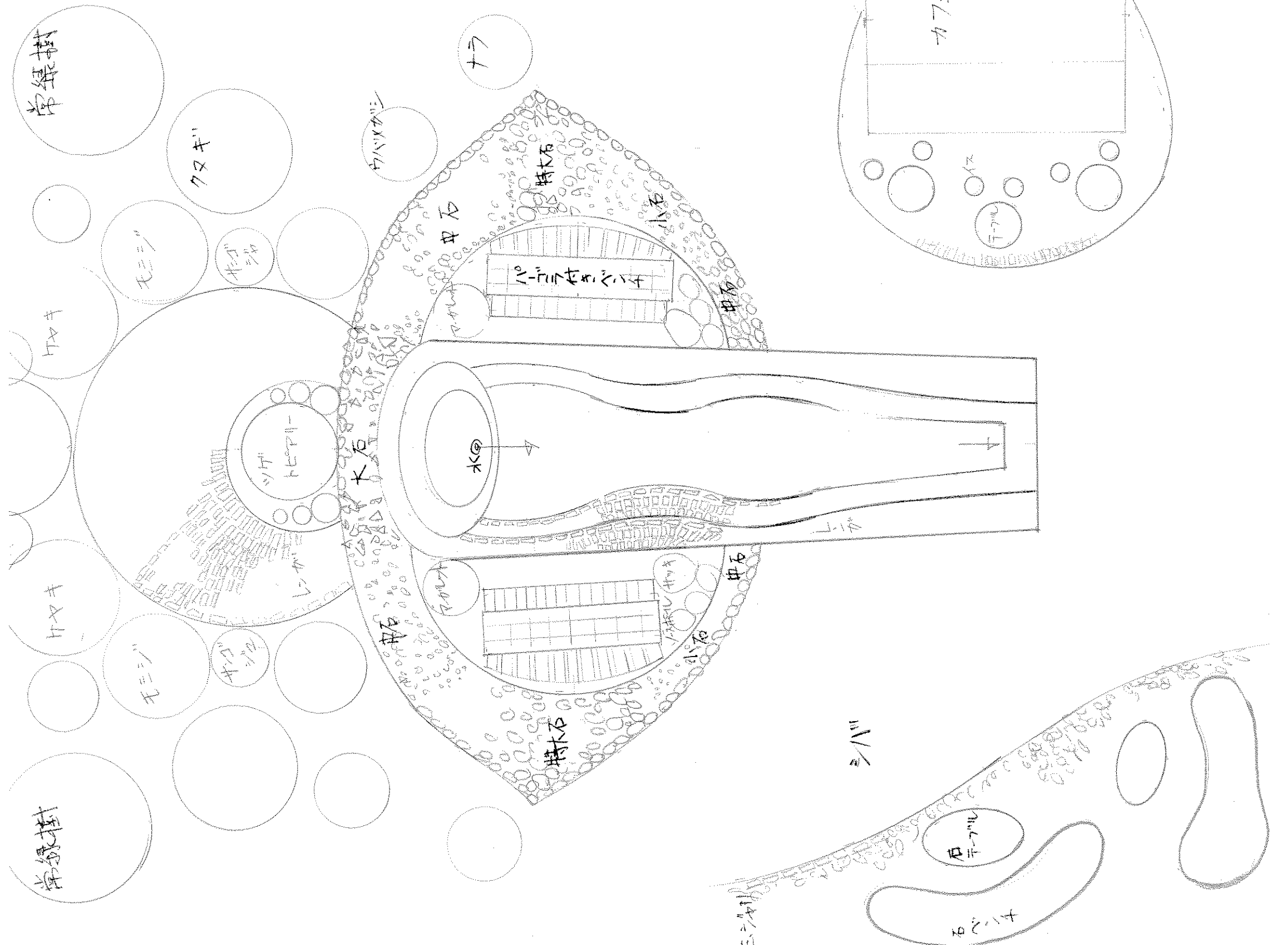
枯れ葉は、土つくりの区画に集め、どんぐりから苗を作り、アジサイや椿は挿し木をボランティアや小学校で育て、卒業時に植樹すれば、人々の心に自分たちの樹、自分たちの杜、町の意識が根づくのではないのでしょうか。

植樹は1人1年に1本、残りは販売して土やポット代に当てる。

花の色は町の統一感を出すため淡い色に絞ると落ち着くと思います。

城の表門前の水場のイメージを同封いたしました。

以上



足廻り、木、等、エ、フ、等、
1 + 11 72 = 72 木ノ、持、世、

7 = 4 6 6 7

11 等、木、種、ノ、5、混、持、持、
木、カ、マ、キ、7、2、5、エ、フ、コ、ウ
11 等、コ、ト、ハ、カ、ラ、ア、カ、

4 11 等、コ、マ、チ、コ、ト、カ、
長、カ、形、ノ、木、カ、マ、形、

7 11 等、石、ノ、聚、カ、シ、深、ノ、カ、マ、ノ、混、持、持、

